

巻 頭 言

高知女子大学看護学会の発展の促進に向けて

高知女子大学看護学会長

松 本 女 里

昨年の学会は、台風の猛威の前に中止せざるを得ませんでした。せっかくの企画・準備等も、また、すでに高知に来ておられた学会員の皆様方にも、多大な迷惑をおかけしました。災害は、何時やって来るかわからず、このところミャンマーのサイクロン、中国の大地震と相次ぐ大きな災害は未曾有の大災害をもたらし、その危険は他人事とは思えません。看護は人々の健康に寄与することを目的にしておりますので、被災地にこれから生ずるであろう数々の健康問題に心が痛みます。

さて、本学会誌も33巻となり、投稿論文の数も増し、質の向上も見られることは喜ばしいことです。看護学は実践の科学である以上、看護研究の成果は看護の質向上に貢献するものでなければなりません。また、現場での疑問や問題を解決するために、研究の成果を活用することは重要であり、そこから、さらに探求され、研究が深められて進んだ実践の成果が得られてこそ、看護の質が高められます。

看護のように、人々の健康に寄与することを目指す実践科学の分野においては、研究と実践が有機的に連動しながら実践科学として発展してゆくことが重要であると考えます。学会は、日頃の研究成果を発表する場であり、他の研究者の成果を学ぶところでもあり、また、会員はもちろん社会に対しても情報を発信するものでもあります。

本学会誌は、大学付属図書館において、本学会誌の文献複写依頼が最も多いとの情報も届いております。このことは、本学会誌が、社会の中で、看護研究、看護実践に広く活用され、看護の質向上に寄与していると考えられます。

今後、学会誌のさらなる充実には、論文を記述する研究者の姿勢や査読システムのあり方が大きく関わってきます。会員の皆様からの積極的な投稿は、学会誌としての論文の幅を広げ、質を高めてゆけることになります。

今後とも、高知女子大学看護学会のさらなる発展とともに社会に貢献していけるよう、会員の皆様と共に学会誌の充実に向け取り組んでいきたいと思っています。今後も多くの投稿とともに、多くのご意見をお待ちしております。